

国際政治

175

歴史的文脈の中の国際政治理論

日本国際政治学会編

序論 歴史的文脈の中の国際政治理論	遠藤 誠治
戦間期イギリスの国際関係研究における「理論」	山中 仁美
国際法学から国際政治学理論へ	篠原 初枝
日本の国際政治学形成における理論の〈輸入〉	西村 邦行
動く標的——慎慮するリアリズムの歴史的文脈	石田 淳
永井陽之助と戦後政治学	酒井 哲哉
日本の平和運動——思想・構造・機能	藤原 修
中国における国際政治研究の展開	川島 真
近代ジハード論の系譜学	池内 恵
トラスティーシップと人道主義	五十嵐 元道
<hr/>	
新人道主義とポスト冷戦期の世界政治	山下 光
<hr/>	
<書評>	
オラフ・シュラム・シュトッケ著 『国際レジームを分解する』	石井 敦
瀬岡直著 『国際連合における拒否権の意義と限界』	本多 美樹
中島琢磨著 『沖縄返還と日米安保体制』	白鳥 潤一郎

2014年3月刊